

コーポレートブランドを高める研究開発

研究開発本部長
野村 聡一

研究開発は企業発展の牽引力であり、新たな発見・発明によるイノベーションが企業の持続的な発展を支え、企業価値の向上を実現するものです。その意味で、研究開発は企業経営そのものであり、事業環境・会社業績の良し悪しに拘らず研究開発を怠ることなく継続し、将来に想いを馳せて夢を大きく育て、新たな事業領域の構築・新製品の創出を目指した取り組みを進めなければなりません。

最近では会社の価値の見方にも変化が起きており、現在価値や株式時価総額など現在見える範囲内の価値づけから、根源的価値すなわち技術投資や研究開発などイノベーションに重きを置くような、無形資産の価値づけへとシフトしています。ステークホルダー（利害関係者・価値共有者）が当社グループに対して抱くイメージを決定づける無形の価値、すなわち自社と他社を差別化し圧倒的な存在感と信頼感を人々に与える“コーポレートブランド”を高めていく必要があります。

単に事業規模の拡大を追求するのではなく、世界で競争力を発揮できる付加価値の高い製品や技術を育成・強化し、他よりも性能面で優れ安全性の高い、適正な価格の製品をスピーディーに世に出し続けることによって、顧客や社会に貢献して豊かな明日の社会の実現に寄与していくことが我々の使命です。そして、その過程で生まれる発見や発明を知的財産で保護していくことが無形の価値を形成していくことにもなります。

10年先の自社のあるべき事業ポートフォリオ・技術ポートフォリオを見据えて、当社ならではの強みを最大限に生かした展開を行っていく必要があります。今後成長が期待される事業分野のトレンドとしては、異分野の技術も融合させながら機能創生・機能発現で製品の付加価値を創出することがキーポイントであり、如何に多くの異分野技術が融合された製品であるかによって、その製品の競争力が決定されるものと思われます。

これからの研究のめざすべき姿勢としては、単に材料“モノ”の産生ではなく機能“コト”の提供をしていくこと、単品開発にとどまらず、システム化のための関連材料開発・関連技術を纏めたひとまとまりのソリューションビジネスを展開していくことをイメージすべきと考えます。

当社は長年にわたる広範囲の研究開発活動を通じて、基盤となる要素技術を蓄積・進化させてきました。また、それらの要素技術からなる基盤技術をもとにして様々な製品開発を行なう中で、他社がまねのできないコア技術を培ってきました。今後とも、基盤技術のより一層の充実とコア技術のさらなる深化と拡大をベースに、社内外の異分野技術との融合により新たなブレイクスルーを図りながら新たな価値を創造していきたいと思えます。

この要素技術の組み合わせや融合による新たな発見・発明によるイノベーションにあたっては、自社内のみならず社外との連携も強力に推し進め「自前主義からの脱却」を目指していく必要があります。社外の、少しでも多くの方々に本誌をお読みいただき、当社の研究分野に関心を持っていただいて、お声掛け・ご意見・ご助言を賜れば幸いに存じます。